

～地域の魅力をサポートします～
われら地域おこし協力隊

もっと佐渡の子どもたちに 学ぶ場を

着任のごあいさつ

放課後等活動支援担当 い おかわ たすく 五百川 将

学校は地域の中心です。そして、学校は地域に支えられています。佐渡市では、その地域にいる方々が学校で地域コーディネーターや学習支援員などとして活躍されています。私はそんな学校と地域をつなぐ役割を担っている方々と共に活動したいと思い、佐渡市地域おこし協力隊に応募しました。

佐渡市では地域と学校が一体となり、子どもたちの放課後の居場所づくりや学習支援、保護者に対する家庭教育サポートに取り組んでいます。私の活動は、そういった取り組みを地域の方々と協働して、促進させていくことです。その中でメインとして行っているのが、島内の小学校で放課後子ども教室を支援し、子どもたちの体験や学習の機会を増やすことです。

佐渡に来る前は、青年海外協力隊としてブータンで保健体育の教員をしていました。青年海外協力隊の経験も、国際理解教育やキャリア教育といった形で今後の活動に取り入れていこうと思います。子どもたちにさまざまな体験を通して、1つでも多くの成功体験を積んでほしいと思います。

12月に着任しました。
佐渡の皆さん、
よろしくお願いします！



☎地域振興課地域振興係 ☎63-4152



認知症には
タイプがありま
す。約半数はア
ルツハイマー型
ります。

今回は認知症に
ついて少しお話を
させていただきます
と思います。一般
的には「ボケ」と認
識されていること
が多いと思います
。認知症は「老化
による物忘れ」で
はなく、「何らかの
病気によって脳の
神経細胞が壊れる
ために起こる症状
や状態」を言いま
す。記憶を再生す
る能力(思い出す
こと)が衰えるの
は老化現象ですが
、認知症の場合
は物事を記憶する
機能に支障をきた
します。例を挙げ
ると、直近の記憶
を覚えていられ
ないため、同じこ
とを何度も尋ね
たり、食事を取
ったことを忘れて
食事や何度も催
促したりします
。また、記憶する
ことが難しくな
りますが、過去の
記憶は思い出せる
ので、現在を過去
と混同し、あたかも
現在起きているこ
とのように、昔の
ことを話し出した
りすることもあり
ます。

市立病院から こんにちは

両津病院 内山 敦司先生 診療科目/内科
認知症を知ろう

認知症で、次に多いのがレビー小体型認知症、血管性認知症と続き、これらは「三大認知症」と言われています。これらは残念ながら現在の医療では根治は難しく、主に進行を抑える治療が行われています。一方で、三大認知症のほかに治療ができるタイプ認知症があり、比較的多いものとして「慢性硬膜下血腫」があります。この病気は手術で治療が可能です。

慢性硬膜下血腫は頭をぶつけたりしたあとに頭蓋骨と脳の間血塊ができ、それが脳を圧迫することとで生じる病気です。ぶつけたことを覚えていないくらいの場合も頭部外傷後の数週間から数カ月で認知症症状や片麻痺などで発症することが多いです。特にたくさんお酒を飲む方や血液サラサラの薬を飲んでいる人は要注意です。短期間でボケたり、体の片側の動かしづらいうつ病状が出た場合にはこの病気の可能性があります。頭のCT検査で診断ができますので、病院を受診してください。

今回は、両津病院の石塚放射線技師長です。